

学会記事 Newsletter

I Cedric Carter 博士逝く

本会名誉会員 Cedric Carter 博士は、1984年3月12日、英国ケントの自宅で逝去された。

博士は逝去される1年半前まで、Medical Research Council の小児保健研究所の臨床遺伝部門の責任者を務められていた。

博士は幼少の頃ウインチェスターで教育を受け、Oxford 大学 Queen's College で学んだ後、St. Thomas's Hospital Medical School に進み、1942年医師の資格を得た。第二次世界大戦中、空軍医官として兵役勤務後1948～1952年ロンドン小児病院で research fellow を務め、主として先天奇形を中心とした研究生活を送った。その後数年間、小児病院遺伝科に勤務のかたわら、英国優生学会の庶務幹事を務めた。この学会は、1907年 F. Galton により設立されたもので、人類遺伝学関係では英国においては有数な学会の一つである。

ついで、1957年 J. Fraser Roberts 博士が初代部長として創設した Medical Research Council 小児保健研究所臨床遺伝部門にスタッフの一員として加わったが、この J. Fraser Roberts 博士との出会いが多因子遺伝の概念を発展させるのに大いに貢献したのである。その後、Carter 博士は1964～1982年、同部門の部長を務め、さらに1975年にはロンドン大学の臨床遺伝学教授に任命されている。ロンドン小児病院のカルテを丹念に検討して作成された先天奇形に関する家系調査は博士の有名な業績の一つである。博士が主張して止まなかった生の資料の数々は、*Journal of Medical Genetics* に多く収録されている。博士の研究成果は、現在でも遺伝相談の場で有益な資料を提供している。

また、社会医学の面への関心も少なくなく1972～1982年、政府の保健・社会福祉省の顧問を務め、地域における遺伝相談ネットワークづくりにも貢献している。また、国際的な面での協力も惜しまず、小児保健研究所の臨床遺伝部門には多くの国々からの人材が出入りすることを歓迎した。

博士は1979年、国際児童年記念で名古屋にて開催された国際母子保健シンポジウム——家庭と地域社会における母子保健——に招待されて「保健教育のなかの遺伝学の重要性」と題する講演をされ、同シンポジウムに参加した小児科医・産婦人科医・母子保健関係者・行政官に多大の感銘を与えた。

博士の業績をたたえ記念する目的で、英国臨床遺伝学会では毎年 Cedric Carter Lecture を開催することを決め、1984年4月、第1回 Lecture が開かれたが、その日の直前に永眠してしまったことが惜しまれる。

(編集委員 日暮 眞)

II 研究助成についてのお知らせ

本学会に例年、数件の研究助成推薦依頼があります。本年度はまだ依頼がきていませんが、予めその概要をお知らせします。

名 称	詳細の問合せ先	助 成 対 象
日産学術研究助成	日産科学振興財団 〒104 東京都中央区 銀座 6-17-2 Tel. 03-543-5597	資源・エネルギー・環境分野
藤原賞	藤原科学財団 〒104 東京都中央区 銀座 4-7-5 Tel. 03-561-7736	自然科学分野
トヨタ財団研究助成	トヨタ財団（研究助成係） 〒160 東京都新宿区 西新宿 2-1-1 新宿三井ビル 37 階・私書箱 236 Tel. 03-344-1701～3	新しい人間社会の探究を基本 テーマとした社会性のある研 究
日本医師会医学賞および 日本医師会医学研究助成費	日本医師会（学術課） 〒101 東京都千代田区 神田駿河台 2-5 Tel. 03-291-2121	1) 基礎医学部門 2) 臨床医学部門 3) 社会医学部門
The Lalor Foundation: Research Grants	Director, Lalor Foundation 3801 Kennette Pike Building B-108, Wilmington Delaware 19807, U.S.A.	Branches of life sciences

(庶務幹事 松井一郎)